

KANAGAWA HOHYUH CLUB
神奈川放友会
Newsletter



Vol. 4 No.3 JUL. 2011
第15号

神奈川放友会

〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地
ストーク伊勢佐木1番館 501号

TEL 045 681 7573 FAX 045 681 7578

発行人 長谷川 武
発行日 2011年7月15日

放友会活動が効を成して来た

会長 長谷川 武

東日本大震災が2011年3月11日午後2時46分に発生した。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0を記録した世界第4位の巨大地震は、巨大津波と原発事故を誘発した国内未曾有の自然災害である。

岩手・宮城・福島の前北沿岸は津波による被害が大きく、東京都面積の70%に及ぶ範囲が津波に襲われた。また、福島第一原発事故への誘発は、二度の水素爆発を伴いチェルノブイリ原発事故(1986年)に並ぶ国際原子力事象評価尺度(INES)「レベル7」の世界的な原発大事故となった。被災者にお見舞い申し上げます。

この状況の中で関東圏は電力不足に見まわると共に、巨大災害の影響で日常生活に節電と自粛ムードが漂い、「総会及び放談会」を中止することとした。

3月16日に開催中止の知らせを送したが、4月3日(日)に県放射線技師会会議室で「神奈川放友会理事会」を開催した。第4回神奈川放友会総会は「はがき」による書面総会として成立したことを確認すると共に、23・24年度役員を選出についても書面賛否により承認されたことを確認した。

その後、新年度第一回理事会が開催され、新理事三人を迎えて会則第10条2による会長・副会長の互選があり、会長：長谷川・副会長：橋口が再選された。

新理事会は地震・津波・原発事故による未曾有の状況を理解すると共に、23年度事業計画に沿って活動することの確認及び統一地方選挙について本会の取組について再確認を行った。

4月1日は神奈川県議会議員選挙の告示日でしたが、横浜市旭区選出の議員候補「合原康行氏の出陣式」に、本会より4人が駆け付け必勝を祈願したこと、九日間の選挙戦に本会はそれなりの支援体制をとり、初めての選挙支援経験ではあったが、会としての真面目な支援行動を展開して高評価が得られている。

お陰様で「神奈川県議会議員 合原 康行」が誕生しました。本会が推薦支援した議員であり、これからの活躍が期待される。神奈川医療専門職連合会(医専連)出身者であるので、十分な連絡体制を取り今後の支援と共に放射線技師の社会的役割の充実を図るため

の協力を求めたい。本会の目的である「21世紀の医療と福祉の向上発展に寄与する社会活動の支援」への協力を求めて行くことになる。

合原議員とは協定書を結んでおり、定期協議の継続・政策提言の県政への反映など、相互に支援協力体制が必要になるので本会の存在も益々重みを増しているが、神放技との二人三脚で、放射線技師職の社会的向上への足がかりに寄与できれば幸いである。

医療専門職連合会出身の県議会議員は初めてのケースであり今後の活躍に期待するものが大きいですが、医専連の県民医療への取組が注目をされることであろう。医専連はこれまで以上に積極的な活動を展開し、チーム医療の推進に全力を注ぐべきであると思う。

本会は創立四周年を迎えるが「石の上にも三年」という時を経ながら、着々と活動実績がその結果を評価されている。これは会員の忌憚のない意見を基に運営する、本会の特徴だからであろう。

しかし、一段二段と階段を踏み上がると会の責任は重くなる一方で、経済力のない本会は徹底した解決策を探さなければならないのです。会員アンケートを踏まえ、世の状況を見ながら十分に検討を重ねたい。

医療・福祉行政への専門職としての関与は具体的内容を整理し、県議との関係を深め、県政への反映を願うために、それぞれの専門職が討議を重ねることが望ましいので一部の専門職が一人で頑張るのではなく、各専門領域を尊重しながら連合として歩む、行政への関与が大切だと思うので医専連の活動を期待する。

「神奈川放友会」が、何やらお役に立つ土壌が出来て来たかに見えるが、如何なものだろうか。

本会はフリーな組織として、神放技や医専連の教えを頂きながら、情勢を踏まえながら活動をしたい。

三期目の役員に選出されたが、今年度は新人三人の理事を迎えたので、ステップアップした放友会活動を模索して行きたい。特に Newsletter に力を入れより充実した身近な内容を取り上げ、会員とのコミュニケーションに努める所存である。

皆さんの放友会である。一緒に歩もうではないか。

平成 23 年度 神奈川県放友会総会報告

4月3日(日)総会を予定していましたが、東日本大震災の影響で「はがき」での議題の賛否をお願いし「はがきによる総会」に変えさせて頂きました。

4月3日(日)12:00より神奈川県放射線技師会 501号室において「平成22年度理事会」を開催しました。

理事会において『総会に関する返信「はがき」について』報告があり、返信97名(会員総数126名に郵送)返信率77%がありました。

「はがきでの総会」の議決または承認は、はがき返信者(総会出席者)の過半数以上の賛成により総会が成立することを確認しました。

総会議事

I 第1号議案 平成22年度事業及び会計報告

平成22年度事業及び会計報告総括

①会員の情報交換 ②神放技への協力、意見具申 ③21世紀の医療と福祉の向上発展に寄与する社会活動への支援に集約されますが、それに沿って精進してきた。会費無しの運営で、急がず焦らずの基本ながら、役員

の熱意で出版物を出すことが出来た。また、会員とのコミュニケーションに目標を合わせると共に、統一地方選挙への支援に踏み込んだ。

その活動の概要を次のように報告しました。

1) 会員数 126名(男:121名 女:5名)2011.2.16

2) 会議 定例理事会 7回

3) 事業活動

- ① 「神奈川県放友会 Newsletter」の発行 年4回
第10号 Vol.3 No.2 2009.04.01 A4版8p 200部
第11号 Vol.3 No.3 2009.07.01 A4版8p 200部
第12号 Vol.3 No.4 2009.10.15 A4版8p 180部
第13号 Vol.4 No.1 2010.01.15 A4版8p 150部
- ② 第3回総会(2010.04.04)及び第1回放談会の集い
- ③ 箱根周遊の旅 平成22年10月24日(日)
- ④ 神奈川県放射線技師会への協力
意見交換・選挙支援の打合せ・委員会参加
- ⑤ 医療体制への鼓動—検診に携わった技師の記録—
石渡良徳 著(自費出版)の出版(2010.05.25)支援
- ⑥ 「神奈川県放友会 Newsletter」を神放技 HP に掲載
- ⑦ 「神奈川県放友会」の紹介及び会員登録の推進活動
地域放射線技師会・放射線技術講習会・賀詞交換会等での役員参加による PR

4) 会計報告

平成22年度会計報告

収入の部		支出の部	
事業収入		送料費	30,640
購読料	58,500	文房具費	39,840
事業運営費	75,000	事業実行費	74,600
寄付収入	25,468	雑費	7,350
前年度繰越金	76,632		
収入合計	240,700	支出合計	152,430
		繰越収支差額	88,270

5) 役員

- | | |
|-----------|----------|
| 会長 長谷川 武 | 理事 早瀬 武雄 |
| 副会長 橋口 邦紘 | 理事 小松崎真一 |
| 監事 柳生 博 | 理事 石渡 良徳 |
| 監事 萩原 明 | 理事 村松 康久 |
| | 理事 草柳 伸彦 |

[総会出席者 97 名の全てが賛成で承認]

II 2号議案 平成22年度監査報告

平成22年度 監査報告

- 監事 柳生 博 ㊟
萩原 明 ㊟

神奈川県放友会会則第11条により、平成23年2月16日に職務を実施したので報告する。

1. 会計監査

会計監査の必要性を認めにくい現状であるが、購読料をうまく使い、技師会の現物支援や会員からの寄付金を合わせて、地道に運営されている。

敬意を称するが、役員負担の限度もあるので財源確保の検討をする必要性を認める。

2. 会務監査

Newsletter 発行を主体に順調に行われている。イベント企画では、参加者を増やす努力がほしい。

会員登録120名を記録しているが、放友会の発展のために会員登録に努力してほしい。

3. 補足

- ①会員の自費出版方式で本会の企画・編集・出版発行を成功させた。会としてよい事業と理解したい。
- ②選挙活動に踏み込んでいるが、慎重に実行してほしい。

[総会出席者 97 名の全てが賛成で承認]

III 第3号議案 平成23年度事業計画及び予算

平成23年度 事業及び会計(案)

4年目を迎えた放友会は「放友会の仲間作り」が基本

ですので、会の発展のため入会員促進に努力をしたい。

地域放射線連絡協議会との連携を密にし、会員の厚生の面的なつながりを築いて行きたい。

また、小規模診療施設等への放射線業務支援体制などが浮上する放友会を願って、神奈川県放射線技師会との全面協力を基にした活動を行う。次の目標を置いて活動したい。

- ① 「神奈川県放友会 Newsletter」の発行（4回/年）
- ② 施設見学・小旅行・懇談会などの企画
- ③ 会員入会登録の促進
- ④ 「クリニック等における放射線業務の支援」を考える活動への支援
- ⑤ 会員アンケートの実施
- ⑥ 神奈川県放射線技師会との意見交換
- ⑦ 議員（市県国）選挙への支援
- ⑧ 「神奈川県放友会 Newsletter」を神奈川県放射線技師会HPに掲載

平成 23 年度 会 計 (案)

収入	購読料(140×500)	70,000-
	事業参加費	75,000-
	寄付金	28,000-
	繰入金	88,270-
	収入合計	261,270-
支出	送料費	40,000-
	Newsletter 発行費	30,000-
	事業実行費	75,000-
	文房具費	40,000-
	諸費	20,000-
	支出合計	205,000-
	次年度繰越金	56,270-

[総会出席者 97 名の全てが賛成で承認]

平成 23・24 年度役員を選出

この議事に対しては、総会資料の中で理事 9 名、監事 1 名の候補を提案している。そして、“「神奈川県放友会」平成 23 年度事業への提言アンケート”の中で、会活動の活性化を目指し多くの会員に理事として参加していただくことを懇願し、総会当日または総会后においても指名理事としてお願いができるよう、総会でのご承認を頂く予定であった。

提言アンケートでは 46 名の回答中 34 名が賛成して下さり、会員の理解を得たが、総会に提案した理事 9 名、監事 1 名については、第 1～3 号議案同様の賛成であったとの解釈をさせて頂き、平成 23・24 年度神奈川県放友会役員が承認を得たことを、平成 22 年度理事会で決定させて頂いた。

神奈川県放友会「会則第 3 章第 9 条の役員」については

平成 23・24 年度任期として、第 10 条の定めにより選出する。

選出役員 理事：5 名以上 10 名以内 監事：2 名
理事・監事候補者

理事：長谷川 武・橋口 邦紘・早瀬 武雄
石渡 良徳・村松 康久・小松崎真一
奥山 清貴・櫻田 晃・小嶋 昌光
監事：草柳 伸彦

以上、「はがき総会」における決定事項であった。

今回、平成 23 年度事業を計画するにあたり、“「神奈川県放友会」平成 23 年度事業への提言アンケート”を実施した。提言頂いた内容についての現執行部の考え方は、Newsletter 第 14 号に掲載した。

[提言アンケートの項目]

5. 神奈川県放友会 Newsletter

購読料金 500 円/年について

6. 理事の増員について

両事項については理事会で検討中です。

「大いに話し合しましょう」との考え方を示し、今回の総会において大いに話し合う予定でいたが、残念ながら次回の企画や総会等において話し合っていきたいと考えている。

『「神奈川県放友会」平成 23 年度事業への提言アンケート』に多くのご意見を頂戴したことに対し、感謝する。

[平成 22 年度理事会終了]

IV 平成 23 年度 第 1 回理事会

- 1) 会則第 10 条 2 (会長・副会長は理事の互選により選任する) による会長・副会長の選出について
会長 長谷川 武・副会長 橋口 邦紘 を選出した。
- 2) 役員を担当を下記の通り決定した。

総務担当理事 橋口 邦紘 ・ 村松 康久
企画担当理事 小松崎真一 ・ 石渡 良徳
奥山 清貴
編集担当理事 櫻田 晃 ・ 小嶋 昌光
渉外担当理事 長谷川 武 ・ 橋口 邦紘
早瀬 武雄

- 3) 新設役員についての提案

会運営の専門的意見をいただくために、前監事だった柳生 博・萩原 明の両氏を「相談役」とすることを理事会として決定する。

- 4) その他

- ・ 「神奈川県放友会」の財務状況と運営方法の確認について
- ・ 2011 年統一選挙 神奈川県議会議員候補者の活動報告

[以上 理事会を終了する]

論説

三期目の放友会！

放友会理事 小松崎 眞一

最近の社会は景気が悪いと言われている。

少子化が日本の人口減少の要因の一つで、景気の悪化を招いているということなら大きな問題ではないか。

現在の放友会は設立以来躍進を続けており、現代の求める社会のニーズに合致しているのではないだろうか！この明るい現状を続けて行くことがより進化した神奈川放友会に繋がるのではと思う。

日頃から雑談や会話を通じて繋がりが深まり絆になって行くように願っている。疑問、知りたいこと、は表現しなければ環境は何も変わらない。そして会員同志が“繋がりに絆へ” 会員数にこだわることなく、親睦の増進を図らなければならない。

皆様方から頂いた神奈川放友会平成23年度事業への提言アンケートを見て身が引き締る思いであり感謝の気持ちである。

想えば平成19年熟年技師や先輩技師との情報交換会、退職者の会発起人会で放友会が了承、放友会発起人会を経て創立60周年記念大会で設立総会が行われたことによって放友会が誕生した。その後長谷川会長のもとで着々と活動を行った。

放友会打合せ、理事会等で内容を検討したことが現在の基礎になっている。

Newsletter 発行のための詳細検討、「神奈川放友会」の集い(イベント)の具体案作成、役員会の開催等が主な柱であった。

第2回総会の開催は平成21年4月であった、検討の結果書面による総会となった。第3回総会は平成22年4月であった、実質上会場が設定されての初めての総会、続いて行われた放談会は会員とはじめての交流であり、親睦の輪が広がり非常に有意義であった。今年、会にかかる費用は主に総会費、役員会費、イベント開催費、Newsletter 発行費、出版本の発行費等でこの出費を明らかにする事が必要だ、会の財源が必要な理由として挙げておかなければならない。財源として会費の徴収が必要であれば会則の改正をしなければならない。幾多の議論があるところだが、今後の活動を思うとぜひ実現したい。

23・24年度の活動は神奈川県放射線技師会の会員の福祉及び相互扶助に関する事業を継承すること、および神奈川県放射線技師会への意見を具申すること、ひいては21世紀の医療と福祉の向上と発展に寄与する社会活動支援を目的とする。

活動に向けた財源の確保。ニューズレターを発行することによる広報活動は、ニューズレターの編集という地味ではあるが莫大な手間暇がかかる。そのニュー

ズソースの収集に費やす時間等をよりスピードアップすることにより偏った負担を減らす必要がある。

今年度の理事会は、役員役割分担を決めている。

実行性のあるイベント企画。実りある出版物の発行は本の内容の選択と編集、財源を確保するなどであり至難の業である。こうした活動は表面に出にくいものであるが、完成の逸話として発表する機会が必要ではないだろうか。

技師会と放友会は相互の意見交換も行われていることから車の両輪のような関係として意見具申の目的を果たして行く。

放友会は技師会と技師会員のつながりを側面から援助する役割を果たしているのではないか！

21世紀の医療と福祉の向上と発展に寄与する社会活動支援について、政治活動への取り組みとして医療の分野に詳しく、精通している議員の支援、クリニックにおける放射線業務の支援、看護師の業務が拡大した現実を視野に入れた活動、チーム医療情報の認識などを通じて活動してゆく。

法人格を持つ団体は活動が制限されるマイナス面がある。しかし放友会は任意団体だ。だからこそ出来ることがあるのではないか。過大評価せずにもう一度、置かれている放友会を見直すことも必要なのではないか。

放友会や技師会から発信する情報量は、かなり多い。情報の交換をどの様に保つかがこのからの課題ではないか。会員から入る情報はニューズレターの投稿、放談会、イベントなどであるが、なるべく多くの参加をお願いしたい。メールの活用も検討したい。

放友会の活動は皆様と共に歩んでゆくことが使命である。

心の拠り所としての放友会が定年退職者のみにとどまらず、高齢を迎えた放射線関係に携わった諸氏にとって物の言える場であってほしい。

私たちはともすれば頑固になりがちである。気が付いて見たら平常心を失っていたということはないだろうか。未知の領域に入るに当たって、いろいろ判断に迷った時放友会の存在が少しでも役立つことを願っている。

また“気配り、目配り”という言葉がある。

今日の社会は事件、事故などトラブルが多く発生している。人ごとにししないで、しっかりと現実を見て対応してほしい。良い提案やアイデア、コンセプトはノウハウをみんなで出し合い実現するものだと思う。

出し合いの精神が、良い結果として表れることを期待している。そして今までの放友会活動を継承しつつ、更なる発展に尽力していく所存である。

よろしくご協力をお願い申し上げる次第である。



助け合って生きる



東日本大震災により亡くなられた方の
冥福をお祈りすると共に被災者に
心からお見舞いを申し上げます。

この災害を境に日本や世界が変わった。災害が及ぼす影響を知った。被災者のことばが報道されるたびに目頭が潤む思いがする。沢山の人がいろいろな思いでこの災害を感じ、何とか援助しなければならない気持ちを持っている。

お互いに支えなければならぬ。私もその一員であり勤務先を持たないが1県民であり、放射線技師として感じるままに今回の災害を振り返って見た。

◇ 東北地方、太平洋沖地震

3月11日地震発生時刻は自宅で某FMラジオを聞きながらパソコンを打っていた。緊急地震速報がラジオから流れ、約10数秒後に強いゆれがあり、写真の額が倒れそうなのを支え下へ降ろした。液晶テレビが落ちそうになり、それを支えた。台に載っていた本が崩れ落ちた。

この年齢になって、過去にこんな強い揺れを感じた記憶がない。

初めての事であった。幸いその他の被害はなかった。翌日自治会長から町会内を見回ってほしいと言われ見回ったが何も被害はなかった。1週間をすぎる頃から地震が来ていないのに体がゆれている。情報により地震酔いである事が分かった。

◇ 東日本大震災

東北地方、太平洋沖地震と気象庁は発表した。その後東日本大震災として報道されたことの意味に重要さを感じた。茨城県の太平洋岸まで地震が連動して起こった。地震や津波は東北地方にとどまらなかった。

◇ 福島第一原子力発電所

報道から知る現実を聞きながらいると、次第に状況が悪化してゆく。情報が一方通行なのだ。好転してゆくなれば問題はないのだろう。次第に不安に陥ってきた。

新聞の読者の投稿に「冷却ポンプを知らずに、から炊きしたため故障をしてしまったのは初歩的ミスか！全国の技術者で対処方法はないのだろうか？」と掲載された。

1960年代に制作された映画“渚にて”を思い出した。当時第3次世界大戦の核戦争勃発によってオーストラリア周辺を除いて人類が滅亡してしまうというあらすじの架空映画である。世界的に有名だった俳優のグレゴリー・ペックとアンソニー・パーキンスによるもので、この映画を私は26～7才頃見た。

2度目は6～7年前に某ビデオ屋で借りて見た。それはディスクになって1枚だけしか並んでいなかった。

しかし、今年3月末ビデオ屋には5枚のディスクがあった。驚いた。核に関する関心が高まったのだろうか？核を扱った架空の映画は少ないと思う。

◇ 災害を支える気持ち

フィギュア世界選手権大会で優勝した安藤美姫選手は日本のためにがんばりたいと言った。

プロ野球楽天チームの星野監督は仙台のためにがんばることをお誓いしますと言った。

プロゴルファーの石川遼選手は、応援してくれるみんながいるから自分がいる、その恩返しをしたい（復興のため）と言った。

世界卓球 2011 に災害を忘れない決意として日本チームは[WASURENAI 3.11]とユニフォームに入れて出場した。

◇ とおり近所と日頃からことばをかけ合う

自然災害は、ほぼ事前を知る事は出来ない。想定してそれに備える事はできる。いつ起こるか分からない災害に戦々恐々としている。これでは日頃の生活が成り立たない。だからといっていつ来るかわからない災害を大きさに捕らえても社会として盛り上がらない。

日常生活で地域、町会内の交流はいざとなった時に力を発揮する。つながりを大切に常にコミュニケーションを忘れないようにしなければならないと思う。

◇ 支え合う

ふと自分の過去を振り返ってみる。不遇の時代自分のことは一生懸命考えていたようだ。

しかし周囲の方のことが記憶に残っていない。助けられている時、気が付かない事がある。その時を思い浮かべると、自分のことのみを考えていた。周囲は何かを感じていたと思う。そして気を使っていたのだろう。また助けてくれていたのかもしれない。

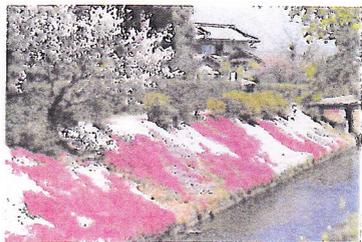
反対に相手に気を使っていた時もあり助けなければと思っていたこともある。その時相手は感じていない場合もあると思う。

支え合っているのではないかと感じる。この年になってそれでは遅いのだろうか？

◇ むすび

この災害復興を成し遂げるために何が出来るか実行したい。いま出来ることは、しっかりとこの事実を受け止める。そして将来の行く末が希望の持てるように構築してほしいと願いたい。

小松崎 真一



伊勢原渋田川散策

福田 利雄

(東海大学医学部付属病院)



私が住んでいる所から歩いて6分、私の子供たちが通った大田小学校の裏手を流れる川が、神奈川花の名所百選に選ばれた「芝桜」で多少有名な渋田川である。四季折々の彩を見せる木々、花々、そして、渋田川に生息する多くの野鳥、お魚さん達が私たちを迎えてくれる。

大変人なつこいワンちゃん、私の姿を見つけると尻尾を振りながらかけ寄ってくる。ワンちゃんは私の散歩なかまです。飼い主の方は、趣味が同じ写真撮影、同好者同志、時として話がはずむ事もある。

春が近づくと鳥たちの水浴び、羽繕いする光景をよく見かけることがある。ユニークで見ていて楽しい。



川沿いに整備された遊歩道は、私の職場である東海大学病院の方まで延々と続いている。冬の空気が澄み切った朝には、富士山をくっきりと見ることができる。



多くの人が渋田川沿いを散策している。時には愛犬を連れ散歩している人と出会うことがある

オオタカが鳩を捕らえる弱肉強食の場を目撃する事もある。眼の前で突然起きた事であり、どうする事もできず、シャッタを押し続けたのである。



冬の渋田川には多くの野鳥が生息している。渋田川に

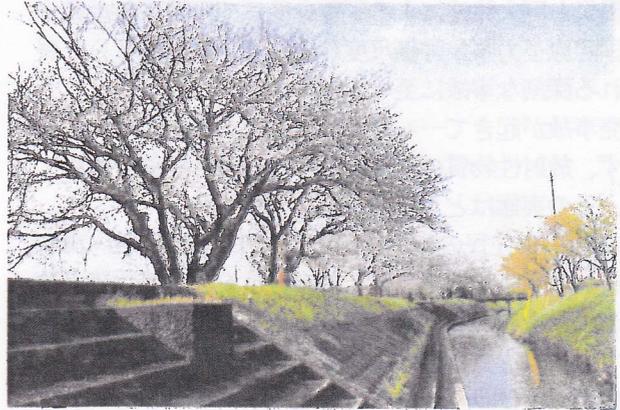
は翡翠（かわせみ）がいます。川面すれすれにエメラルド色の矢の如く飛翔する翡翠、本当にきれいです。ハマってしまいました。



冬の間だけ、中国、サハリンなどから日本に渡ってくるジョウビタキ（紋付鳥）を渋田川で見つけました。とても可愛い仕草をする鳥さんでした。



このようなカップルを見かけることもあります。渋田川沿いには桜の木が植栽されており、桜の開花シ



ーズンには花のトンネルができます。この桜並木をまっすぐ進むと、約600mにわたり、じゅうたんを敷き詰めたように、色とりどりの芝桜で埋め尽くされている「芝桜まつり」の会場になります。



私の散策コースを拙い文と写真で紹介しました。

物理学者 寺田寅彦 の名言にならう

横浜市磯子区 長谷川 武

はじめに

2011. 03. 11 14:46 は東日本大震災が発生した日でした。マグニチュード9.0 を記録した世界でも4番目にランクされる巨大地震が発生し、東北関東大震災が発生して主に岩手・宮城・福島には巨大津波による災害は大きく、更に福島第一原発事故の被害は国難と言える未曾有の複合大災害に至りました。

大震災と巨大津波による影響を受けて原発事故が発生し、国際原子力事象評価尺度 (INES) で「レベル7」と評価される深刻な事故に至っています。

原発事故が起きて一ヶ月が経過しているが今だに沈黙化せず、放射性物質の住民に対する影響は深刻を極めていますが、その実態はどうなのでしょう？

30km 圏内の住民の避難を始め、飲料水や農作物・海産物の放射能汚染が検出され、許容濃度を超える汚染が確認されて、政府が発表する暫定勧告に国民は風評被害を含めて大打撃を受けています。

国民は、「マイクロベルト」とか「ミリベックル」「テラベックル」など聞き慣れない言葉が飛び交い、平常時の何倍・何十倍・何百倍・何千倍・何万倍の数字に右往左往しています。

放射線被ばくの影響について、正しい理解が必要であることを痛感します。

「放射線は年間 50mSv 以下なら浴びても安全」：近藤宗平先生のレポートが、今回の原発事故による放射線被ばくへの影響の解釈に参考になると思い、そのレポートの概要を紹介します。

『日本人は異常に放射線を怖がっている特性があり、法律による放射線規制が非科学的に厳しいことを反映していると思われる。』と前置きして、

物理学者寺田寅彦博士の名言の教えに添って、近藤宗平先生のレポートは「世界の放射線被ばく事例の調査資料に基づき評価」したものを解説したものです。

放射線は年間 50mSv 以下なら浴びても安全

大阪大学名誉教授の近藤宗平先生は、その名言にならって、「放射線を正しく怖がるために、現在の放射線管理規制の非科学的部分を改訂する必要がある」というレポートを、「放射線安全管理総合情報誌」FB News No. 401 (2010. 10. 01) に掲載しています。

それは「放射線は年間 50 mSv 以下なら浴びても安全」というタイトルで発表されています。

このレポートは読みやすく、要点よく記されているので理解しやすく、被曝管理には大いに役に立つ内容です。

はじめにの1節で「欧米では、がん患者の50~60%以

上が放射線治療を受けているが、日本では25%程度に過ぎない。また、食品照射は、米国などでは多くの食品が許可されており、香辛料の放射線照射加工は60カ国が許可されているが、わが国ではジャガイモの放射線処理が1つ許可になっているに過ぎない。」と最新の放射線治療・食品照射の近況を述べ、「日本人は異常に放射線を怖がる民族で、その放射線怖がり特性は、放射線規制が非科学的に厳しいことを反映していると思われる。」とも記述しています。

論説は8節に分けて世界の事象を解説されて、最後に9節で「まとめと考察」で締めています。

その内容を端的にまとめて紹介します。

1. 放射線危険領域の策定は日米間で相違

- ・日本の法律規制では、放射線施設との境界は年間 1 mSv 以下
- ・米国保健物理学会は、2004年の声明で「放射線によるリスクの検定を年間 50 mSv 以下の領域で行なうことに反対。50 mSv 以下のリスクは検定不能なほど小さいか、または存在しない。」

この問題は、微量放射線を被曝した人達の健康調査の結果から解決できます。

2. 高自然放射線地区のがん死亡率は

普通地区のがん死亡率より低い

	高線量地区	対照地区
線量率 (mSv /年)	5.5	2.1
がん死亡率 (10万人年当たり)	48.8	51.1

この差は統計的には有意ではありませんが、住民の40~70歳の人に限定すると、高自然放射線地区のがん死亡率が対照地区より14.6%低いのは、統計的に有意です。これは年間約3 mSv 多く浴び続けると有益効果が起こります。

3. 英国の放射線科医で

後期に登録した人達のSMR値

放射線科医の観察死亡数と放射線を浴びない参照集団の死亡率(Q)にもとづいて算出した期待死亡数(E)との比(Q/E)を、SMR (standardized mortality ratio) 標準化死亡比と呼ぶ。

被ばくゼロの一般臨床医よりがん死亡率が29%(=1-0.71)低下したことを示す。

観察死亡数(O)	32
一般臨床医の期待死亡数(E)	45.03
SMR	0.71

観察死亡数(O)	32
一般臨床医の期待死亡数(E)	45.03
SMR	0.71

後期に登録した 1955~1997 年の放射線科医は、年間約 5 mSv の放射線を 20 年間被ばくしたと推定されている。

4. 航空パイロットと一般人のがん死亡率の比較

定期航空便のパイロットは、年間 2~5mSv を地上にいたときより余分に被ばくします。欧州 7 カ国の 19,184 人の男性定期便パイロットについて 1960~1997 年に調査しました。

一般人より 25 mSv 以上浴びた航空パイロットは、余分の被ばくのおかげで、がん死亡率が 40% 低下する有益効果を得ました。

累積線量(mSv)	5~14.9	15~4.9	25 以上
全がん死観察数 O	79	98	72
全がん死期待数 E	117	138	120
全がん死の SMR	0.67	0.71	0.6

5. 米国原子力船修理造船工と対照造船工の

がん死亡率の比較

造船工が原子炉周辺鋼材内の放射線 ^{60}Co から、 γ 線を年間約 3 mSv づつ 10 年間浴び続けました。

・対照集団 原子力船の修理をしない造船工

全がん死亡率の比較調査 (疫学的調査): ジョンス Hopkins 大学教授 G. Matanoski です。

原子力船修理造船工と対照造船工における全がん死亡率に由来する SMR の比較

がんの種類	原子力船修理造船工(A)		対象造船工(B)	
	O/E	SMR	O/E	SMR
全がん	603/632	0.95	878/785	1.12

- ・対照造船工の SMR 値と比べると危険率 5% 以下で、統計的に有意の低下。
- ・A の SMR は 0.95 で、B の SMR 値 1.12 の 0.85 倍である。
- ・原子力船修理工のがん死亡率は、対照造船工より 15% 低い。

6. チェルノブイリ原子炉事故のパニックと

死の灰による白血病

- ・1986 年 4 月の原子炉事故死の灰 ^{134}Cs ^{137}Cs
ベラルーシ国ゴメン州の
地上汚染濃度 (S) の平均値約 200 kBq / m²
これによる被曝線量率 (D) は 年間 4 mSv
実験式: D mSv = 2 S (100 kBq/m²)
- ・白血病の年間発病率 : 違いはなかった
- ・死の灰は、恐怖心をあおりたてるが、かなり大量でも実際は安全なものである。

7. 50 mSv 程度の放射線線量の安全性

英国 1936~1954 年に最初に登録した放射線科医の 30 年間の全がん死亡率と、X線被曝ゼロの一般臨床医の全がん死亡率比 SMR は 0.92 でした。

この時期の放射線科医の年間被曝線量は 50~100 mSv と推定されます。

この報告は、年間 50 mSv 程度の放射線は安全線量であることの証拠となります。

以上の 8 節の解説に、最後の 9 節で「まとめと考察」
①自然放射線の年間被曝が普通より 3 mSv 高い中国の場合
②X線被曝が年間 5 mSv の英国放射線科医の場合
③宇宙線を年間 2~5 mSv 余分に浴びる航空便パイロットの場合
④年間 3 mSv の γ 線を浴び続けた原子力船修理造船工の場合、これらのいずれの場合も、10 数年間被曝した結果、がん死亡率が対照群より低下する有益効果が確認されました。

- ・年間 2~5 mSv の被曝は hormesis 線量ということになる。
- ・年間被曝量が 50~100 mSv になるとがん死亡率は増えないので、この線量域は安全な線量域といえる。
- ・法律は、「放射線を浴びると被曝線量に比例してがんが増加し、がんが増えない安全線量域 (しきい値) は存在しない」という仮説を採用している。
- この仮説は、ICRP が主張している「放射線の安全管理の原則」に基づいています。ICRP の原則は、年間数 mSv の放射線はホルモン線量であるという事実と、「がん誘発が起こらない」しきい値の存在を示す科学的調査結果の両者から支持されません。
- ・「大多数の毒物は、微量摂取のときは有益効果を示す」ホルミシスの存在の発見は、毒物学の研究分野に革命をもたらしました。毒物学の指導的研究者 Calabress と Baldwin は科学誌 Nature に、「毒物学は基本的信条を考え直す」という意見書を発表しました。

「放射線を正しく怖がるために、現在の放射線管理規制の非科学的部分を改訂する必要がある。」と述べています。

以上のような 7 項目の事例内容のことを解説し、最後に物理学者寺田寅彦の名言を付け加えています。

[物理学者寺田寅彦先生の名言]

『ものを怖がらな過ぎたり、怖がり過ぎたりするのはやさしいが、正当に怖がることはなかなか難しい』

最後に、是非とも近藤宗平先生の「放射線は年間 50mSv 以下なら浴びても安全」このレポートを熟読願います。

福島第一原発事故による 30km 圏内の住民避難や飲料水・海産物の摂取制限や空中濃度・海水濃度の放射能汚染による安全性を理解するために、参考にされることをお奨めします。

理事就任挨拶



初めまして

神奈川放友会理事

奥山博貴

本年度より神奈川放友会の新しい理事をさせて頂き戴きませぬ奥山です。

簡単ですが、私の自己紹介をさせていただきます。

私は、横浜生まれの横浜育ちで今までに横浜以外に住んだことも無い生粋の浜っこです。出身校は城西で、現在勤務しています施設は済生会若草病院です。

若草病院は、神奈川県横浜市でも最も南部に位置し、横須賀市にと境の金沢区に在ります。金沢区は、海と山に恵まれ風光明媚で歴史的にも、金沢文庫や称名寺などの鎌倉時代からの施設や神社が多数存在し、江戸時代の浮世絵師・歌川広重によって描かれた大判錦絵による金沢八景でも有名な場所でも有ります。

金沢の風景の美しさは鎌倉時代から認識され、江戸時代に水戸光圀が招いた中国・明の禅僧東皐心越が、故郷の瀟湘八景になぞられた七言絶句の漢詩に詠んだことで金沢八景の名が高まりました。

ちなみに金沢八景とは、[小泉夜雨・称名晚鐘・乙鱸帰帆・州崎晴嵐・平瀉落雁・野島夕照・内川暮雪]

若草病院はその中に書かれた八景の中心である、平瀉町に有ります。

街は賑やかな横浜のイメージとは違い、夜は九時になれば鮓屋も閉まってしまふ静かな昔からの漁師町です。

神奈川放友会においては、4月の理事会から参加させて頂き、企画担当をやらせて頂く事になりました。在任の理事の先生方は経験・実績共そうそうたる顔ぶれで、私のような若輩ものには、かなり戸惑いがあります。

微力ではありますが、これからの放友会行事に協力させて頂きますのでご指導の程宜しくお願い申し上げます。

放友会新理事として参加します

神奈川放友会理事

小嶋昌光

放友会理事（編集）を拝命しました小嶋昌光です。

放友会は平成19年に設立されましたが、私はその時には、神奈川県放射線技師会総務委員会委員でした。

話しには聞いており、「神奈川放友会」は退職された方々の集まり、いわば第2の放射線技師会のような感じで聞いていました。自分にはまだ遠い先の話のように捉えておりましたが、発足した直後に突然「放友会の会員に入って下さい」とお話を頂きました。

「えっ、私は現役なのですけれど」と申し上げましたが、何かそういうのは関係なく会員を広く募集しているとのことでした。それではと言うことで、簡単な「神奈川放友会の目的・趣旨」のお話を伺い、会員として登録をしました。

その後、放友会企画「ビール工場見学」では家族で参加させて頂き、とても楽しい一時を過ごせました。

しかし、何しろ周りにいる先輩方は第一線で活躍されているか、または活躍されていた先輩方ばかりで、こちらとしてはえらく恐縮するばかりで、家族がいなかったら身を置く場所が無い感じだったのです。

でも、皆様は気さくにお声を掛けて下さり、とてもありがたく感謝しておりました。

その後、平成22年4月に開催された第3回総会では、「何と議長を！」とのご指名を頂き、何とか無事に努めることができました。

この経験により会の活動内容が理解でき、またまた皆様に心より感謝をさせて頂くことになりました。

今年に入り、放友会理事就任のお話を頂きました。

現在の理事の方々はどうもそうたるメンバーの先輩方ばかりで、果たして私に務まるのだろうかと心配をしましたが、若い方にも（もう若いと言うほどの年ではありませんが）ぜひ参加して頂きたいとのお趣旨でした。

何だか恐縮したり、驚いたり、お声を掛けて頂いたり、私は何かと放友会と御縁があるのかなあと、思い切ってお引き受けさせて頂きました。

はなはだ微力ではございますが、放友会のために少しでも力になれるようにと思っております。

どうぞ皆様、よろしくお願ひいたします。

よろしくお願ひいたします

神奈川放友会理事

櫻田 晃

このたび、放友会理事（編集担当）を命じられました櫻田晃です。今年度で定年退職を迎える小生としては、これで少しはのんびりできるかなと思っていたところ、ある日突然長谷川武会長自ら施設まで来られ「放友会の理事をお願いしたい。」と言われたのでした。即答を避け、私としては後日丁重にお断りしようと思っていました。しかし、「時すでに遅し」で、外堀は埋まっていました。というわけで、初めての理事会で編集理事を担当するよう命じられました。かつて県技師会でちょっと編集をかじった程度ですので、またまた長谷川会長にご指導いただきながら、責めを果たせたらと思っています。きっと長谷川会長にいらさらさせることになるのではと思いますが、会員のみなさん含めてあたたかくご指導いただきますようお願いいたします。頼りがいのある小嶋昌光さんも一緒ですので、とともどもよろしくお願ひいたします。

合原康行 神奈川県議会議員からのメッセージ

神奈川放友会の皆様こんにちは。この度、神奈川県議会議員としての職責を与えて戴きました、神奈川県栄養士会・神奈川県病院栄養士協議会所属の「あいほら康行」でございます。

今回の統一地方選挙に際しましては、神奈川放友会並びに神奈川県放射線技師会の皆様には大変お世話になり改めてお礼申し上げます。さらに、長谷川武会長には選挙事務所において開票速報にもお付き合いの上、翌日に「朝帰り」をして戴きました。誠にありがとうございました。

去る4月30日から議員としての任期のスタートですが、5月2日に県庁本庁舎におきまして議員徽章の授与が行われ、「議員生活」が始まったところです。所属委員会は、県民企業常任委員会（県民局・企業庁の関連業務）、社会問題対策特別委員会（男女共同参画、自殺対策、子育てなど）および労働審議会委員です。

なぜ、病院に勤務していた一栄養士が県議会議員候補として出馬することに至ったのか、その経過を全くご存じない方のために簡単にご説明させて戴きたいと思えます。

平成14年当時、開業医出身の県議会議員であった酒井文彦先生より、「医療関連議席」を県議会に確保したいとの思いから神奈川県医療専門職連合会に候補者擁立の話しが持ち込まれました。当時の連合会の会長は、私の所属団体である栄養士会の会長であったため、会長から出馬要請があり、コメディカルの代表として出馬を決意致しました。その時は残念ながら議席を確保することは出来ませんでした。今回、縁あって民主党公認候補として出馬することになりました。

皆様ご承知の通り、中央議会では国民の皆様には大変ご迷惑をお掛けしていますことを、党員のひとりとしてお詫び申し上げます。今回の選挙では「民主党公認候補」と言うだけで、票が逃げて行ってしまうという状況ではございましたが、「健やかな社会」の実現を訴えて有権者の皆様のご支援を戴きながら選挙戦を戦って参りました。お陰様で皆様のご支援により26,527票を頂戴し、議席を獲得することが出来ました。

私が政策として訴えております、医療・介護・子育て・教育分野の充実につきましては、支持政党とは関係なく、すべての県民の皆様に利益が還元出来るものと確信しております。

コメディカルがそれぞれの専門性を十分に発揮できる環境を整えれば、患者さまに、より多くの「利益」を提供することが可能です。

微力ではございますが、コメディカルの代表として、また一栄養士として健康行政に関わりたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

神奈川放友会 Newsletter

購読料入金方法について

総務理事

購読料入金依頼に際し、ご迷惑をかけたことをお詫び申し上げます。

購読料を送金する方法は、ゆうちょ銀行の「通常払込」の方法を利用しています。

「通常払込み」の方法は、現金を振替口座に払い込む方法です。この「通常払込み」にのみ会員に送付した「払込取扱票」が使用できます。（電信払込み・電信為替には使用できません。）

神奈川放友会では口座記号が「1」から始まる総合口座を開設していますが、この口座に払い込む方法は「電信払込」に相当し、払込金額525円がかかります。

制度を理解していなかったため、大変ご迷惑をお掛けしました。

今回、「0」から始まる振替口座を開設致しました。これで「通常払込み」方法が使用できます。

従いまして、新しく会員に送付した記号「0」から

始まる「払込取扱票」を使用することで、窓口取扱は120円（ATMでは80円）で送金できます。

ゆうちょ銀行に口座を開設している会員の方がカードを使いATMで送金したい場合は、「電信振替」に相当します。この方法には「払込取扱票」は有料扱いになり80円かかります。ご注意ください。

「電信為替」はATMを手入力に対応した場合のみ無料になります。

（尚、ゆうちょ銀行のATM取扱基準が、平成23年10月1日より変更することがあります。）

「神奈川放友会 Newsletter」は、年4回定期刊行されております。

1月・4月・7月・10月の年4回の発行です。
ご支援をお願い申し上げます。

みんなの広場

監事就任にあたって

神奈川放友会監事 草柳伸彦

放友会理事を2期努めました、この度の選出により監事役を務めることになりました。会の発展に役立つよう務めさせていただきます。よろしくお願い致します。

5月27日横浜市技能文化会館で県放射線技師会総会が開催され、昨年度の事業報告、決算報告、鑑査報告の議題は全て承認されたが、今年度の事業計画は公益法人格取得に向けての展開、地域保健協力、放射線管理・放射線障害防止に関する調査研究、放射線技術向上に関する研究会&講演会、関連団体との連絡協調等が経画されています。また、3月11日に発生した東日本大震災から3ヶ月近くが経過した現在、復興作業が必死に続けられておりますが福島原子力発電所災害においては、この先も大変な放射線災害を被る危険性があります。

現在技師会が実施している自然環境下の放射線測定、結果公開(HP)に関しては、今後も事業として重要なものであるため継続して頂きたい。

かつてのJCO臨界事故から12年経過したが、教訓として、より身近に「放射線事故等が起きる」可能性が年々高くなるということである。

今後、放射線技師の使命として何が必要か、もう一度再認識する必要があります。諸問題解決のために、組織として、個人として、・・・神奈川の活動が必要です。

放友会も一緒に考えて行きましょう。

合原康行 県議会議員が誕生

4月の県議会議員選挙において、神奈川放友会が推薦した横浜市旭区選挙区から立候補した、「合原康行候補」が26,257票を獲得して選挙区第2位で見事初当選をした。

選挙結果の内容は、次の通りである。

旭区 (3-4) 当	27,261	磯本桂太郎	自現
当	26,257	合原 康行	民新
当	22,596	小野寺慎一郎	公現
	18,754	澤木 優輔	無元

合原康行県議は神奈川県医療専門職連合会の推薦を受けて、県栄養士会所属で日本栄養士連盟神奈川県支部からの立候補でした。

民主党公認候補者として各種団体からの推薦と応援を頂き、かつ本会会員からの協力が得られました。神奈川放友会は初めての選挙支援体験でしたが、出来る範囲での全面支援を実行しました。

合原県議にはこれからの活躍が大きく期待されておりますが、我々神奈川放友会も県議と共に活動を行うために、

県議からの教えを頂きたいと願っている。

なお、6月25日に「県議 合原康行を囲む会」が、ホテル キヤメロット ジャパン行われている。

また、合原県議は「神奈川放友会の会員」として登録され、当選挨拶のメッセージを寄せてくれました。

第14回神奈川放射線学術大会開催される

「がん治療」と「放射線」の講演に

多くの市民が参加

平成23年6月12日(日)第14回神奈川放射線学術大会が横浜市開港記念会館にて開催された。

診療放射線技師の技術向上と県民医療の向上に貢献することを目的とした、学術大会が開催された。

大会は開催の準備をした役員さんたちの情熱が伝わる、熱気を感じる会場であった。

市民公開であり多くの市民が参加された。大会の内容は講座(1)「がん治療の動向」について 神奈川県立

がんセンター放射線腫瘍科部長 中村優子 先生

講座(2)「安全と安心とは」について

明治大学理工学部教授 北野 大 先生

基調講演「デジタル社会の戦略」について

日本医療画像システム工業会会長

加藤久豊 先生

の講演であった。

福島原子力発電事故により国民が放射線被曝についての関心が高まっている昨今、中山先生の講演前半での放射線被曝の解説については、一般参加の市民に興味の持った話であった。「安心と安全とは」については、安心・安全の本質をしっかりと見極める事の重要性を、北野先生の巧みな会話で話されていた。「デジタル社会の戦略」の話ではITの技術革新(イノベーション)が、医療の仕組みを大きく変え進歩することについて話され、放射線技師にとって大変有意義な話であった。

この他には、教育講演・一般演題・賛助会員、医療専門職連合会所属団体等のブースでの展示発表があった。

非公式の数字ではあるが、一般市民参加が150名余であったようである。

[編集後記] 福島原発事故は国民生活を大きく揺るがし、世界の原発が見直しされている。

水素爆発による放射能汚染事故は、INES「レベル7」の世界第一級の原子力事故。診療放射線技師としての活動があるのでは! 「探し、貢献したい」・・・

編集者も頑張って原稿を収集していますが、会員からの投稿をお待ちしております。宜しくお願いします。

[編 集] 櫻田 晃・小嶋 昌光